

中京大学附属図書館(本館)における 利用集中図書について

宮 錦 陽 子

は じ め に

当館の蔵書冊数は既に30万冊を越えてはいるが、その蔵書が全て利用されているとは言えない。頻繁に利用されている資料と、ほとんど利用されず、書庫で埃をかぶっている資料とがある。現に、試験、卒論の時期になるときまって一図書に利用が集中する傾向が見られる。他にも類似のものがあるにもかかわらず、利用者が要求してくる資料は一図書に集中する。類似のものを請求しても、その資料は閲覧にとどまり、館外貸出しまでにはいかないようである。

複本は3～4冊、多いもので50冊程購入しているものもある。しかし、これらも購入して時がたつとあまり利用がなくなり、書庫のスペースばかりを占有することになる。利用者から請求があり、係が書庫で探してその資料が見つからないと、当館では“貸出中”として処理される。この“貸出中”は、本当に貸出されている場合と、その他の事情によって資料を求める利用者に資料が渡らない場合のいずれかであるが、(後者の場合もかなり多いと思われるが)ここでは便宜的にそれら全てを“貸出中”とし、本当に貸出中でない場合については後に触れることにする。

利用が集中する資料はどんなものか。また、どの時期に、こういった利用者によるものかについて統計をとってみた。統計の結果から、利用が集中する資料についていかに対処していくべきか考えていきたい。

1 学生の利用傾向

中京大学図書館学紀要第2号(中京大学における学生の図書館利用に関

する調査から)の統計による学生の利用目的は下記のような順位である。

- 1 レポート・卒論
- 2 試験準備
- 3 講義の予習・復習
- 4 休憩
- 5 趣味・娯楽を求める
- 6 専門分野の自主的研究
- 7 知識・教養を広める
- 8 就職や資格試験の準備
- 9 その他

また、学年別 5 位までの比較は、

項 目 \ 学 年	1	2	3	4
レポ ー ト・卒 論	23%	27%	30%	44%
試 験 準 備	18	25	29	23
講 義 の 予 習 復 習	12	12	14	5
休 憩 す る	6	12	9	5
趣味・娯楽を求めて	8	11	5	5

と、なっており、レポート・卒論、試験準備が多く、やはり学習、研究に直結した利用が多いようである。これと平行して“貸出中”の資料も、学習、研究に直結したものが多いといえよう。

また、学生がふやしてほしいと希望する資料についても同じことがいえるよう。

- 1 ゼミ・講義・卒論に必要な専門書
- 2 ベストセラーもの
- 3 趣味・スポーツ・娯楽の本や雑誌
- 4 音楽のレコードやテープ
- 5 一般教養書 (以下略)

(参①)

昭和57年度4月～9月（8月は夏季休暇の為除く）の5ヶ月間で、統計をとったところ次のようであった。

		4月	5月	6月	7月	9月
開 館 日		22日	21日	26日	27日	20日
入 館 者 数		6,969	8,248	101,101	5,884	11,316
館 外	人 数	486	691	805	641	975
貸 出	冊 数	948	1,207	1,479	1,276	1,703
館 内	人 数	258	570	626	484	881
閱 覧	冊 数	518	1,186	1,275	1,004	1,674
貸中出	人 数	63	152	191	160	356
	冊 数	80	198	229	214	477

“貸出中” 冊数を学部別で見ると

学部 \ 月	4	5	6	7	9	計
文学部	67冊	179冊	189冊	183冊	339冊	957冊
法学部	10	9	24	20	81	144
商学部	3	10	16	11	57	97
計	80	198	229	214	477	1,198

となっている。文学部は、国文、英文、心理の3学科で人数も多いといふこともあるが、他学部と比べて図書館の利用も多く、“貸出中” も多くなっている。月別に見ると、9月は前期試験があり、一図書に利用が集中し、“貸出中” がめだったようである。

2 利用の集中を学部別にみる

では、こういった資料に利用が集中したのだろうか。昭和57年4月～9月（8月は除く）の間に特に利用が集中した資料を学部学年別にあげる

と、

〈文学部〉

一年

遠藤周作文学全集，基本色彩学，化学通論，一般地質学，図書館の歴史，アメリカの図書館，レポート論文のまとめ方と書き方，音声学，英語音声学，白居易，唐代の詩人，李白と杜甫，大和物語の注釈と研究……他

二年

体育史概史，体育スポーツの周辺，哲学概論，地質学入門，化学総説，図書館の歴史，西欧の図書館史，ドイツの文学，英語音声学，英米文学概論，心理学史入門，心の実験室，条件反応，宇治拾遺物語，義経記，平家物語，史記，新体詩抄，万葉集……他

三年

自殺に関する18章，心理検査の理論と実際，児童心理，臨床心理学の進歩，発達心理学，ロールシャッハ法練習問題集，ジョン・ミルトン論，シェイクスピアの文法，音声学，アメリカ文学史，英語発達史，徒然草全注釈，源氏物語，千載集，島崎藤村，建礼門院右京大夫集評解，愚管抄，伊勢物語，平家物語，万葉集，蜻蛉日記，国語史，曾根崎心中，十六夜日記，古今和歌集，更級日記，助詞と助動詞の研究……他

四年

小児臨床心理検査法，臨床心理学の進歩，ロールシャッハ法，自閉症精神薄弱児，英文学の方言，ヘミングウェイ研究，英語の前置詞，聖書英語論考，ロレンス研究，詳考奥の細道，対訳西鶴全集，万葉集注釈，源氏物語，萩原朔太郎，書道基礎講座，新体詩抄，曾根崎心中，中国文学と日本文学，大和物語，今昔物語の鑑賞と批評，坪内逍遙，日本語研究，助詞助動詞の研究……他

〈商学部〉

一年

一握の砂，記憶について，心理学序説，生物学，夏目漱石，島崎藤村，箆記の基礎……他

二年

啄木歌集研究ノート，現代政治学，体育史概説，社会学の基本問題，フランチャイズ・システム，大学体育理論，工業簿記の手ほどき，減価償却論……他

三年

労務管理と労働組合，マーケティングと消費者，現代消費者経済論，消費者主義と企業行動，概説商品学，企業会計原則の解明，財務会計研究，現代労務管理概論，減価償却論……他

四年

再生産過程分析序論，財務会計研究，経営財務，中国の経済概況，労務管理と労働組合，アメリカの中小企業とマーケティング，哲学原論，現代労務管理概論，減価償却論，監査論，中国近代化の諸問題，生産管理……他

〈法学部〉

一年

数学発見ものがたり，憲法講話，アラビアの数学，一握の砂，憲法提要，法学入門……他

二年

倫理学，ソビエト法入門，ロシア史，青年心理学，物理の新研究，現代の政治学，古墳時代……他

三年

刑事学，刑事学の基本問題，新社会防衛論，犯罪社会学の諸問題，演習株式会社法，日本歴史，会社法通論，民事訴訟法，民法概論，自由心証論，アメリカ史研究入門……他

四年

刑法，刑法と科学，損害賠償の研究，労働問題，死刑廃止論の研究，
保安処分法の理論，国際法，株式会社法研究，商法の諸問題，自由心
証主義，民法概論……他

文学部の中では国文の学生による“貸出中”が目立つ様である。また，
学習，研究に直結した資料利用状況がうかがえる。一・二年では一般教養
の資料，娯楽のものに利用が集中しているようだが，三・四年ではゼミ・
卒論等で必要な学部学科に直結した資料に利用が集中しているといえよ
う。また，学年を通して利用が集中する資料もいくつかあるようだ。法学
部，商学部についてもまったく同じことがいえる。

次に，最も利用の多い文学部（国文科について）の“貸出中”につい
て，もう少し詳しく調べてみた。

一年

唐代の詩人（9月）

夏目漱石の思想，夏目漱石・森鷗外の文学（9月）

雨月物語の研究（9月）

大和物語の注釈と研究（9月）

二年

宇治拾遺物語（日本古典文学全集 28巻）（9月）

義経記（東洋文庫 114巻）（6月）

新体詩抄初編（名著復刻全集 140巻）（9月）

平家物語（現代語訳日本の古典 10巻）（6月）

西行法師名歌評釈（6月）

新撰山家集（6月）

唐詩選新釈（9月）

三年

建礼門院右京太夫評解，評注建礼門院右京太夫集全釈（5～9月）

徒然草全解文法対訳，徒然草の語法と文脈，徒然草常緑本一解釈と研
究一（4～9月）

注釈更級日記，更級日記評解（5～9月）

曾根崎心中解釈と研究，曾根崎心中（9月）

助詞助動詞の研究，助詞（品詞別日本文法講座 9巻），助詞と助動詞の研究（6～9月）

十六夜日記新釈（9月）

島崎藤村，島崎藤村論（4～9月）

四年

対訳西鶴全集 16巻，現代語訳西鶴全集 12巻（4～9月）

詳考奥の細道，奥の細道の研究，奥の細道の新研究，松尾芭蕉論，伊賀蕉門の研究と資料（4～7月）

萩原朔太郎人と作品，萩原朔太郎研究，萩原朔太郎論，萩原朔太郎ノート（4～7月）

源氏物語の研究，源氏物語現代語訳，講座解釈と文法源氏物語（5～9月）

万葉集総索引，万葉集注釈，作者類別年代順万葉集，万葉集全釈，万葉集評釈（5～9月）

助詞助動詞の研究，国語助動詞の研究（7～9月）

坪内逍遙，坪内逍遙研究（9月）

（ ）内は“貸出中”集中の月

特に“貸出中”の多いもの上位を学年別に並べてみた。学生の利用は，講義・研究に直結している傾向が強く，一時期に講義で必要な資料を請求してくるわけであるが中でも，全釈，評釈，解釈，対訳，語訳等に集中するようである。また，図書館を利用しなければならないゼミとそうでないところがはっきり別れ，いくつかのゼミナールがあるが，その指導方法によって比較的広範囲の図書を漁らなければならないゼミと，一，二の資料を集中的に利用するゼミがあるようである。

閲覧業務をしていて，一番利用が集中すると感じるのが次の2つである。対訳西鶴全集と現代語訳西鶴全集であり，これは毎年といってよい程

利用の集中度が高く、対訳西鶴全集は開架と書庫に一セットずつあるが、利用が集中するのは16巻のみである。又、現代語訳西鶴全集の方は、書庫に一セットあるのみである。そして利用が集中するのは12巻のみである。各々、他の巻については利用が集中することは少ない。こういったシリーズものを複本にする時シリーズを一セットを複本にするか、利用が集中する一冊についてだけ複本にするか問題である。

これらの図書もそうだが、他の資料についてもよく利用されると思われるものはこれまでも複本を揃えてはいるが、これにも限度があり、他の方法で利用を可能にしなければなるまい。

3 指定図書について

当館では、教員から要望があれば指定図書として館内閲覧のみ可能な状態にしている。館外貸出しされないのので、いつでも図書館へくれば利用できるわけだ。必要ならばコピーもできる。指定図書としてカウンター横に置いてあるので、請求から入手までに時間がかからない利点がある。教員から学生に利用資料は、指定図書として図書館にあることを知らせておけばもっと簡単に資料を入手できる。

指定図書制度のオーソドックスな方法は、一般書架から選び出し、一般書架から別置して使用される型である。指定された資料が図書館に所蔵されてない場合は新規に購入されるがその場合、各学部割り当てられた図書費から購入する型で、指定の為の特別な予算は組まれてはいない。しかし、その基盤となる蔵書が不整備の為、新規に整備しているのが現状のようだ。

『指定図書は、教官が講義の一部として必読を課したものである以上、図書館にその図書がない場合には、学生に購入させるか、あるいは学部学科に割り当てられた予算の中から購入して図書館にその運用を依頼すべきものであって、図書館が指定図書予算を確保し、教官に必読書の指定を依頼するような教官が受身の形では、指定された図書がはたして真に必読を

課すほどのものであったかどうか疑わしい。』（参⑥）

確かに、教員側から積極的に、利用の多い資料は指定図書にするようにしていただきたいものである。

ところで、指定図書制度をとるにしても複本が揃っていなければならない。指定図書制度は、（教員側、学生側共に）講義を行なう上で理解度を深める事ができたり、読書方向の概要が決ったりして便利である反面、過度の指定図書の必読を課する事は、学生の自主的な学習活動を阻害する弊害もでてくるだろう。こう考えると、指定図書と同事に、一般図書についても整備していく必要がでてくる。参考に述べると、（1976年調査）東海地区大学図書館28校中、指定図書制度を行なっている大学は12校である。（参②）

4 予約制度について

他に、予約という方法も考えられる。当館では予約制度はないが、学生の希望があれば予約を受けている。これは、制度として確立しているわけではないので、予約ができる事を知っている学生は利用するが、一般には知られていないようである。館員は、予約できる事を努めて伝えるようにしているが、やはり制度としてないことは、いろいろな点で支障をきたす。

予約をしておくで、学生貸出しの場合、貸出し期間の終了する一週間後には予約者の手に資料は入ることになる。教職員は一年貸出しなので、必要に応じて電話をして一旦返却してもらい学生に貸出している。

『予約制度は「要求された図書は必ず提供する」ことを前提としたサービスである。』（参③）しかし、予約サービスにおいても問題はある。当館のように予約制度が確立してないと、利用者の要求も「試しに…」といったような事もあり、予約していたのを忘れていたり、「他で間にあったのでもう必要でない」と言われる事もある。これでは館側もはりあいがなし、又他の利用者にも迷惑になる。館側が要求された図書は必ず提供する事を前提としているのだから利用者の方も、「試しに…」という気持ち

で予約するのは遠慮してほしい。

予約制度は当館でも今後やっていかなくてはならないサービスの一つだと考える。ちなみに東海地区大学図書館28校中予約制度を行なっているのは6校であり、慣例として行なっている大学は11校である。(参②)

前記の利用が集中する図書については、できるだけ複本を揃え、そのうちの一冊を指定図書(館内閲覧に限る)にしてはどうだろうか。卒論・ゼミ等のレポート、講義の予復習、試験時に利用が集中する資料については、教員側から早めに必読図書リストを学生に与え、短期間に少数の資料に利用が集中することを避けるように協力を得たい。

5 貸出冊数と日数について

“貸出中”が多い理由として、貸出日数及び冊数に問題があるのではないかと考えてみた。

当館の館内閲覧・館外貸出冊数及び期間

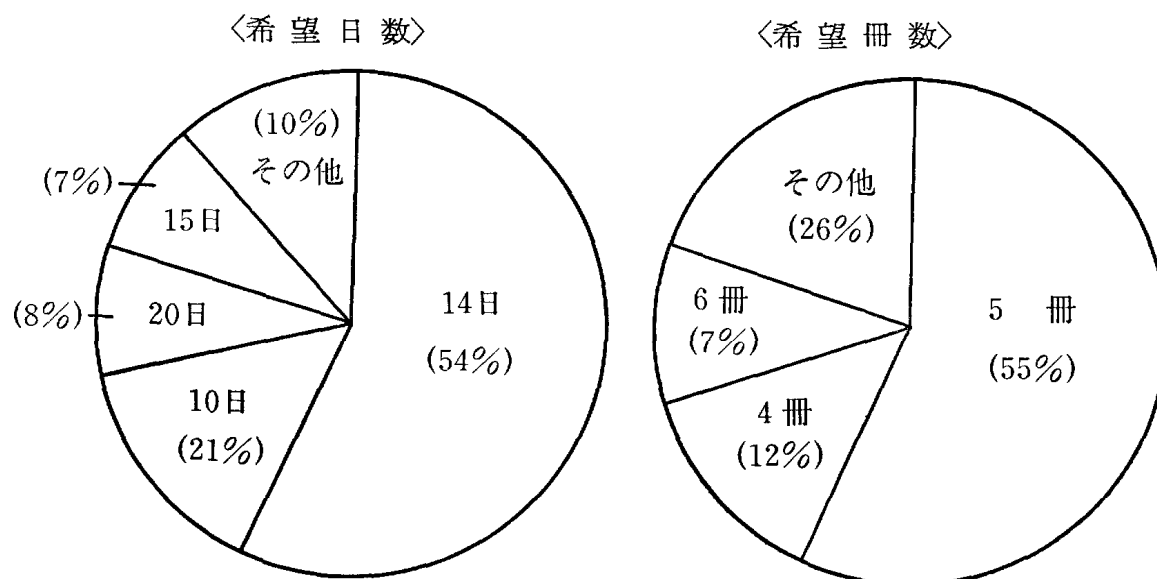
		教職員	大学院生	学 生
館外貸出	冊 数	100冊以内	20冊以内	3冊以内
	日 数	1年以内	30日以内	7日以内
館内閲覧	冊 数	(入庫可)	(入庫可)	4冊以内

(ただし卒論の場合3冊以内30日以内の貸出をしている)

上記のような貸出し現状に学生は満足しているだろうか。閲覧業務をしていて、「4冊貸してほしいのですがいけませんか」「卒論でも3冊ですか」としばしば言われる。紀要第2号の統計によると、貸出し日数をふやしてほしいという学生は34%である。また、貸出し冊数をふやしてほしいという学生は22%である。

日数、冊数の希望は75P図の通りである。

この図からもわかるように、2週間、5冊が圧倒的な希望である。しかし、現状でも利用の輻輳が起こるのにこの希望をとりいれると、増々“貸



出中”がふえ、かえって利用者に不満を与えることになる。

当館では一週間で返却してもらい、その資料に他の利用者が無い場合は引き続き貸出している。その場合、資料を提示して次の返却日を記入するだけでよい。この方法でいくと事実上、学生の希望日数だけ貸出しできることになる。冊数においては、利用の輻輳をさける意味で制限をするとか、やむを得ないかもわからない。しかし、卒業論文の資料としての貸出し期間は、一カ月であるが、冊数については3冊なので、少なすぎるのではないかと思われる。かえって冊数を多くし、期間を短かくしてもいいのではないか。

6 所在不明の資料

ところで“貸出中”の資料は全てが貸出されて書庫にないというものでもないようだ。次のような理由において“貸出中”になった資料もある。

a 請求カードの書き誤り

当館では請求カードにカード目録を見て請求番号、記号、書名を書き請求するのだが、下記のような誤りの為、探し出せない場合がある。

① 請求番号、記号の誤り

(数字の書き間違い例)

() 内は正しい請求番号

914.54 Y 19	(914.45 Y 19)	810.6 H 87	(801.6 H 87)
913.67 Mu 56	(913.367 Mu 56)	815.5 A 12	(915.5 A 12)
913.52 A 93 16	(913.5208 A 93 16)	222.008 Ta 82	(222.008 Ta 28)

(アルファベットの書き間違い例)

918 M 77	(918 N 77)	910.26 V 53	(910.26 U 53)
913.67 Ma 56	(913.67 Mu 56)	913.67 Me 56	(913.67 Mu 56)

(記述の間違い例)

911 068 Ka 15	(911.068 Ka 15)	933	(933 L 19)
810.6 H 87	(開 810.6 H 87)	910.26 88	(910.26 Sh 88 8)

② 書名の書き間違い

例 島崎藤村, 萩原朔太郎, 芥川龍之介, 日本銀行, 宮沢賢治

これらは, 著者目録から検索した時, 書名の欄に著者名を書いて請求した例であり, 図書を探す側では, 一見書名と見えるものなので著者と気づかず“貸出中”となってしまう。

また, 類以書名の多い図書などで, 書名を書き誤った為“貸出中”になることもある。

(類似書名の例)

—徒然草解説	—徒然草講義	—万葉集研究
—徒然草解釈	—徒然草講話	—万葉集の研究
—徒然草解釈法	—徒然草講座	

- 万葉集語法研究
- 万葉集語法私論
- 万葉集の文学論的研究
- 万葉集の文化史的研究
- 万葉集考説
- 万葉集考叢
- 西鶴の文芸
- 西鶴の文体
- 西鶴論講
- 西鶴論考
- 西鶴の研究
- 西鶴の新研究
- 西鶴織留新註
- 西鶴織留新解
- 建礼門院右京太夫
- 建礼門院右京太夫集
- 建礼門院右京太夫集評解
- 建礼門院右京太夫集全釈
- 源氏物語の文芸的研究
- 源氏物語の文献学的研究
- 源氏物語語法考
- 源氏物語語彙の研究
- 芭蕉俳諧の根本問題
- 芭蕉俳句の解釈と鑑賞
- 芭蕉の俳句鑑賞
- 芭蕉研究
- 芭蕉の研究
- 芭蕉俳句研究
- 上代国語法研究
- 上代国文学の研究
- 上代の国語国文学
- 助詞と助動詞の研究
- 助詞助動詞の研究

(書き間違いの例)

徒然草の(文)法と文脈 語	今昔物語の鑑賞と批(判) 集 評
建礼門院右京 太夫集 評解	助詞と動詞の研究 助
愚管抄全(評釈) 注解	万葉集(全)釈 評
奥の細道研究 の	笠間(叢)書165紫式部集の解釈と論考 選

以上は、学生が請求の時書き間違いをして“貸出中”になったものだが、中でも請求カードの書き方を知らない為、資料が入手できない事が多い。こういった誤りをなくすためにも、ガイダンス、オリエンテーション等の図書館案内は重要だと思う。また、館内においても積極的な利用指導を行なうべきである。

b 配架ミス

図書の配架が完璧でなく請求された図書を捜しに行っても見落したり、見つけられなかったりする。

入庫者が書庫内で利用後、元の場所に戻す時、配架位置が高い所であったり、棚がいっぱいで移動しないと入らない等の場合、適当な所に返架してある事もしばしばである。この対応策として書庫内に返却本置き場を設け、配架は館員がやり、利用者は返架しないようにするといいいのではないだろうか。

その他、棚にいっぱい詰めすぎて本の後に別の本が押しやられ隠れてしまったり、棚の前後をよく見ないで配架して、棚ごとに配列が独立してし



棚の后方に押しやられている場合

まう時、見つけられない。本が薄くてラベルが見にくい（例えば、「9」や「6」が「1」に見えたり、「△△△.91」の「1」が見えず「△△△.9」と感ちがいする）とか、ラベルの文字が消えかけていたり、剥がれたもの、ラベルの貼りまちがい、古くなって文字の読めない図書もあり、その為見落とす事もある。館員も分類の見まちがいやかんちがいをする事もあり、配架及び請求資料を捜す時十分気をつけなくてはなるまい。又、特に乱れやすい開架図書については、絶えず整頓することが望ましい。ラベ

ル等については、気づいた時々に訂正してゆきたいものである。

c その他

aと同様の事ではあるが、請求カードの文字が雑で見間違える事もある。

例

雑 字	正しい請求	見間違い	雑 字	正しい請求	見間違い
011	071	011	22208	222.08	222.08
J47	J47	J41	D 88	D 88	O 86
302.03	362.03	302.03	122102	122.02	221.02
Ku21	Ka 21	Ku 21	Ta12	Ta12	To12
91888	918.68	918.88	418.88	918.68	418.68
✓ 93	U 93	✓ 93	H 84	H 89	H 84

また、カードの取直しをしたにもかかわらず、古いカードが入ったまま、それを利用者が見て請求してきた時なども見つけることができない。事後処理はきちんとやってゆきたいものだ。

閲覧当番も、不審な請求カードはカード目録を調べたり、請求した利用者に聞いたりして少しでも利用が可能となるよう努力はしているが、まだ前述のような誤りは多い様である。

お わ り に

以上、“貸出中”の資料について考えてみた。利用が集中する資料に対しては、複本購入、指定図書等の対処をし、少しでも利用者が貸出・閲覧できるようにしたい。また、教員の協力を得て、一時期に利用が集中することを防ぎたい。その他、館内利用指導も積極的に行ない、利用者が満足する資料提供を心掛けたいものである。

〈参考・引用文献〉

- ① 中京大学図書館学紀要 第2号 「中京大学における学生の図書館利用に関する調査から」 福井司郎
- ② 東海地区大学図書館相互利用ハンドブック 1976年
- ③ シリーズ・図書館の仕事 13 「貸出しと閲覧」 前川恒雄編
- ④ KULIC 5 「座談会大学教育と図書館の利用」 神谷不二他
- ⑤ 図書館学の五法則 S. R. ランガナタン著 森耕一監訳
- ⑥ 大学図書館研究 第2号 国立大学図書館協議会編